

## 4. 地域公共交通計画の基本的な方針

### 4.1 将来像

五條市ビジョンにおいて、まちの将来像を『「五條」 ひと・みちが交わり、新たな価値が生まれるまち』と定めていることを踏まえ、市内・市外を問わず、様々な人が交流する拠点を繋ぐ地域公共交通網と、高齢化等による交通弱者の増加が予想される中、安全・安心な移動機会の創出により、市民の日常生活を支え、安心して暮らすことができる交通環境を目指し、市の活力を支える地域公共交通ネットワークを実現します。

### 4.2 基本方針

4.1 で示した将来像を実現するため、3 章で示した地域公共交通における現状と課題に対応する基本方針を以下の3点と定めます。なお、五條市は、SDGs を推進すべくこれらのゴールとの関係性を意識しながら、各種施策に取り組めます。

#### a. まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの構築

- 市役所庁舎の移転、定住や交流の促進など、まちづくりとの連携を図りながら、過度に自動車に頼らずとも、住み続けられるまちづくりを実現する地域公共交通ネットワークの継続的な見直し・改善に努めます。
- 異なる地域公共交通間の相互の乗継環境の向上を図り、各地域公共交通が有機的に連携し、市内の移動の利便性を高める地域公共交通ネットワークの構築を図ります。



#### b. 地域特性に応じた地域公共交通の維持及び利便性の向上

- 人口規模・需要に応じた地域公共交通のサービスレベルを見直すことで、厳しい財政状況の中でも、あらゆる年齢の人々の健康的な生活を確保し福祉を推進するとともに、人々に包摂かつ公平で質の高い教育が受けられる環境を確保するための持続可能な地域公共交通サービスの提供に努めます。
- 見直しにあたっては、地域ごとに異なるニーズを見極め、既存サービスの運行形態に捉われず、デジタル技術・AI 等を活用した新たなモビリティサービスの導入や公共交通のシームレスな利用環境を整備するための MaaS の実現可能性など多様な運行サービスについて検討することで、市民の生活を支える重要なインフラとして、地域住民の生活に寄り添うように地域公共交通の利便性の向上を図ります。



### c. 市民・交通事業者・行政が一体となった地域公共交通の育成

- 市民が、五條市で運行される地域公共交通の重要性を理解し、貴重な地域公共交通サービスが有効に活用されるための取組みを促進します。また、市民も担い手の一主体として、地域公共交通に向き合う環境づくりを目指します。
- 市内で地域公共交通を運営する交通事業者と行政との連携を強化し、具体的な方針や内容を定めて、地域ニーズに合ったサービスを持続的かつ効率的に提供するための取組みの推進を図ります。※



※ 別途「五條市地域公共交通利便増進実施計画（仮称）」を策定して、推進予定

### 参考【SDGs(持続可能な開発目標)について】

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現をめざす世界共通の目標です。平成 27 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動計画）」の中で掲げられました。令和 12 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

17 のゴールの内、公共交通の維持・確保を図ることにより、「3. すべての人に健康と福祉を」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「8. 働きがいも経済成長も」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「13. 気候変動に具体的な対策を」に寄与するものと考えています。

